

CASBEE-広島 (2010年ver.1)
新溶解工場

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート	実施設計段階	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							3.7
Q1 室内環境							-
1 音環境							-
1.1 騒音							-
1 暗騒音レベル							-
2 設備騒音対策							-
1.2 遮音							-
1 開口部遮音性能							-
2 界壁遮音性能							-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-
1.3 吸音							-
2 温熱環境							-
2.1 室温制御							-
1 室温設定							-
2 室温変動の低減対策							-
3 外皮性能							-
4 ゾーン別制御性							-
5 負荷・設備制御の個別制御							-
6 空調の空調に対する配慮							-
7 設備の省エネ							-
2.2 湿度制御							-
2.3 空調方式							-
3 光・視環境							-
3.1 屋光利用							-
1 屋光率							-
2 方位別開口							-
3 屋光利用設備							-
3.2 グレア対策							-
1 眩光防止							-
2 屋光制御							-
3.3 照度							-
1 照度							-
2 照度基準							-
3.4 照明制御							-
4 空気質環境							-
4.1 発生源対策							-
1 化学汚染物質							-
2 臭気対策							-
3 ばいじん対策							-
4.2 換気							-
1 換気量							-
2 自然換気性能							-
3 取り入れ外気への配慮							-
4 換気設備							-
4.3 運用管理							-
1 CO ₂ の監視							-
2 喫煙の制御							-
Q2 サービス性能							2.6
1 機能性							1.0
1.1 機能性・使いやすさ							-
1 広さ・収納性							-
2 高度情報通信設備対応							-
3 バリアフリー計画							-
1.2 心理性・快適性							-
1 広さ感・景観							-
2 リフレッシュスペース							-
3 内装計画							-
1.3 維持管理							-
1 維持管理に配慮した設計							-
2 維持管理用機能の確保							-
2 耐用性・信頼性							3.1
2.1 耐震・免震							-
1 耐震性							-
2 免震・制振性能							-
2.2 部品・部材の耐用年数							-
1 躯体材料の耐用年数							-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							-
6 主要設備機器の更新必要間隔							-

主要機器は最低15年を想定しています。

2.4 信頼性			3.0	0.19		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備	非常発電機の採用および受電設備の二重化	3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			4.5	0.29		-	4.5
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31		-	
1	階高のゆとり	平均天井高さ 13.41m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	平均天井高さ 13.41m	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		構造図に依る	5.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性			3.8	0.38		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	ほぼ室内露出配管	4.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性	ほぼ室内露出配管	5.0	0.22		-	
6	バックアップスペース	ほぼ室内露出配管	4.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57		-	4.5
1 生物環境の保全と創出		敷地周囲に水路を設け、一部にピオトープの要素を取り込み観察できる。	4.0	0.30		-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		コイン通りは、造幣局から来た名称で、地域のシンボルとなっています。	5.0	0.40		-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30		-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	桜の時期には、「花のまわり道」として一般開放し、地域の活性化に貢献しています。	5.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	緑地面積を、十分確保しています。	4.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.7
1 建物の熱負荷抑制				-		-	-
2 自然エネルギー利用			4.0	0.29		-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	採光利用	4.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電	4.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		LEDの採用 ERR=13.6	4.0	0.43		-	4.0
4 効率的運用			3.0	0.29		-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.3
1 水資源保護			3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2	雑排水再利システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63		-	3.4
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	施工難易度は高くなりましたが、最大限既設建物を利用し、機能上支障なく利用可能としました。	4.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	屋根下地材として、硬質木毛セメント板	3.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装材と設備が錯綜せず解体・改修・更新の際に容易に取りはずせる	4.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.22		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.68		-	
1	消火剤	ハロン消火剤を一切使用していない	4.0	0.50		-	
2	断熱材		-	-		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.0
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が95%	3.4	0.33		-	3.4
2 地域環境への配慮			2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		2.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	自転車の利用・駐車場の確保に関する取組み	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	省エネ・メンテナンスを考慮し、照明範囲及び、光源の適切化を図り計画を行いました。	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	